

平成28年度 燕市西蒲原郡特別活動部 活動報告

部長 野上 孝

1 研究主題

お互いを認め合える学級（学校）づくり

2 研究の概要と実際

(1) 第2回部会 講演会

- ① 期日・会場 6月1日（水） 弥彦村立弥彦小学校
- ② 講師 新潟市立新津第一小学校 教諭 齋藤 航 様
- ③ 演題 「互いを認め合える学級づくり」
- ④ 講演内容

学級会における議題の選定は、特別活動の目標を理解した上で、教師が願いをしっかりともち、子どもたちの願いを引き出すことが大切である。話し合いで子どもが判断の基準とするのは、共通体験・学級目標・客観的な実態把握ができる尺度である。学級活動をうまく進めるには、学級の素地も大切である。低学年から、相手の笑顔が自分の喜びになるような体験、集団としての共通体験を積ませる必要がある。

(2) 第3回部会 授業研究

- ① 期日・会場 11月30日（水） 燕市立吉田小学校
- ② 授業者 6年2組担任 長谷川 仁 教諭
- ③ 指導者 新潟市西蒲区教育支援センター所長 小林 靖直 様
- ④ 内容

ア 授業の概要

(活動名) 「卒業を前に、今のままで本当に良いのか6の2！～クラス会議 Season2!～」

児童会行事で披露する内容を、一部の男子たちが進めようとしている。しかし乗り気なのは学級の4分1程度である。可視化された学級の実態資料などをもとにした話し合いを通して、学級集団として足りないものに改めて気付いたり、全校のリーダーとしてできることを考えたりした。

イ 協議会・指導の内容

反対意見も受け入れようとする温かい雰囲気があった。温かな学級経営とこれまで継続してきたクラス会議の成果である。また、自分たちの諸問題を解決しようとする態度が育っている成果でもある。話し合いにおいて指導者が出るタイミングが難しいが、出過ぎずに話し合いの方向性を修正することは大切である。議題に立ち返った後、子どもたちは客観的な資料をもとに意見を出していた。その時には、折り合いを付けるようなアイデアや、学級にとどまらない学校全体の向上に向けた意見も出ていた。

3 成果と課題

実際の指導場面を部員全員で参観できたことは、各自が自校の学級経営に生かす上で大変有意義だった。学級経営で特に大切なことは、「相手の話をしっかりと聞く」、「反対意見もしっかりと受けとめた上で反論する」こと等、お互いを大切に仕合う雰囲気である。次年度も、可能であれば公開授業研究が望ましいと考えている。